アシュラム
ASHRAM

2018. 1月第590号

発行所　アシュラムセンター
523-0894 近江八幡市中村町 567-2
Tel 0748-33-4030
Fax 0748-33-8856

アシュラムセンターホームページ
www.ashramcenter.jp

編　集　アシュラム誌編集委員会

振　替　01050-6-53772
アシュラムセンター

印　刷　明文舎印刷商事（株）

解　題

アシュラムとはインドの言葉で「退修」という意味で、スタンレー・ジョーンズ博士によって日本に紹介されたものであります。祈りの生活をもってみ前に自らを整え、今日に於ける主のご委託にこたえんというのがその願いです。

夜明け前の暗さほど暗いものはない。眠れぬ夜のなんと長いことよ。「わたしは嘆き疲れました。夜ごと涙は床に溢れ、寝床は漂うほどです。」（詩6：7）この詩人の嘆きこそ、漆黒の暗さの中で、一人悲しみと絶望の中にある者の姿だ。もう少し、もう少しで夜が明ける、そう信じ期待しながらも、現実はますます暗闇へと向かう。「暗闇と死の影に座しているもの」（ルカ1：79）は、その座り込んでしまったところからなかなか立ち上がることはできない。時が来れば解決するよ、そんな友の声も虚しく響く。不安と恐れ、不信と疑念だけがその心の内を支配する。長い夜は、まだまだ明けない。

夜明けの暗さほど暗いものはない。眠れぬ夜のなんと長いことよ。けれども明けぬ夜はない。「泣きながら夜を過ごす人にも喜びの歌と共に朝を迎えさせてくださる」（詩30：6）この詩人の言葉は信じるに値する。もう少し、もう少しで世は明ける。そう信じる者にこそ「高いところからあけぼのの光が我らを訪れ」（ルカ1：78）る。今の苦しみも悲しみも決して永遠に続くものではない。主の日は近い。あけぼのの光は白い。それは全てのものを洗い清める純白の光だ。あらゆる罪と汚れを取り除く全き子羊が再び来られる。私たちの歩みは争いではなく、必ず「平和の道に導」（ルカ1：79）かれる。長い夜は、必ず明ける。

瞑想

これは我らの神の憐れみの心による。この憐れみによって、高い所からあけぼのの光が我らを訪れ、暗闇と死の陰に座している者たちを照らし、我らの歩みを平和の道に導く。

ルカ1：78―79

主幹牧師　榎本　恵

「ヤハウェは恵み深い」。

洗礼者ヨハネの父ザカリアは、その子の誕生に際し、聖霊に満たされ預言した。「これは我らの神の憐れみの心による。この憐れみによって、高い所からあけぼのの光が我らを訪れ、暗闇と死の陰に座している者たちを照らし、我らの歩みを平和の道に導く。」（ルカ1：78―79）と。長年の不妊に悩み、苦しんでいた夫婦に神は、最高の贈り物をくださった。ザカリアの名は、ヘブライ語で「神に記憶されている」という意味。母エリサベトは「神は私の誓い」。それぞれの名の通り、神は二人を覚え、その誓いを果たしてくださった。そしてこの二人に授かった幼子の名ヨハネは必ず明ける。

いよいよ新しい年が始まろうとしている。それはまだまだ先の見えぬ暗い暗い夜道であるかもしれない。ヨブのように「灰の中に座り、素焼きのかけらで体中をかきむし」（ヨブ2：8）るしかない、そんな時の中にいる者もあろう。また世の中の「わが民の破滅を手軽に治療して平和がないのに、『平和、平和』と言う」（エレミヤ6：14）声に流されていくこともあろう。けれども、私たちは夜明けを信じよう。

恵みと憐れみに富み給う主は、私たちを覚えておられ、私たちへの誓いを果たされる。あけぼのの光をもって私たちを照らし、私たちを平和へ導いてくださる。友よ、このみ言葉を確信し、この年も歩んでいこう。

最後に、ひとりの牧者の詩を紹介し、終わりにしよう。病の中で、ひたすら祈り、癒されぬまま眠れぬ夜を過ごし、けれども主は覚え、誓いを果たされると信じ、ひたすら祈り続けた牧者の詩を。

病気が早く治りますようにと
祈っていた自分が
信仰を増して下さいと
祈れたとき
何か大きな発見でもしたような
よろこびが胸にこみあげてきた

（榎本保郎著『聴くことと祈ること』より）

修道場の仲間たち

伊達　知恵

修道場に来て1年。初めは兄と二人だった共同生活が気づけば5人になっていた。一人一人、性格も職業も生活リズムも違う。最近は、私の仕事の時間が変わり、アシュラムセンターや修道生と関わる時間が減ってしまった。ある休みの日に、一緒にお昼を食べて話をする時間ができた。他愛のない業務連絡以外の会話。そんな時間が日常には大事なんだということを感じた休日の午後。一緒に生活することは、お互いがどういう人か知りあっていかないと成立しない。『この人は○○が得意（苦手）』『こんなことが好き』『こういう時はそっとしとく』…。私は、余裕がないと『自分はこんなにしてるのに！』とイライラする。だけど、そういう時は、必要以上に頑張ってしまっていたり、相手に期待していることがほとんど。『あぁ、今は頑張れないんだな』とできない自分も周りも受け入れて、足りない部分は補い合って生活していけたらいいなと思う。

（京都丸太町教会）

クリスマスリース、センス良く出来上がり☆

今泉　晶久

11月から新たに修道生に加わった今泉晶久です。よろしくお願いします。アシュラム紙に登場するのは初めて？だと思うので、軽く自己紹介しますね。大阪府出身。身長170センチ。昔の氷川きよしに似てるとよく言われる。クリスチャンではない、クリスチャンホームでもない。関学の神学部に6年籍を置いたものの退学。ほぼ聖書に触れてない学生生活、だけど榎本てる子先生の授業だけは真剣に学ぶ。特技は、いざ興味を持てば深く探求すること。嫌いなものは乳製品。てる子先生の紹介で、何かを求めてこのアシュラムセンター修道場にたどり着きました。初めて親元を離れ、初めての集団生活。毎日新鮮なことばかりで迷いもたくさんありますが、何より優しい人たちに助けられて楽しく過ごしています。るつ子さんのご飯が美味しくて、体重が増えたのは内緒です。僕が求めてるものはイエスキリストなのか？恵さんや聖書が教えてくれるのか？そんなことは全くわかりませんが、毎朝の祈祷会でお祈りしています。また機会があったら登場しますね。

アシュラムセンターや修道場のみなさん、いつもありがとうございます！

阪神アシュラムにて。恩師榎本てる子師の叔母、中道悦子姉と。

森山　俊輝

4月からアシュラムセンター修道場で生活している森山俊輝です。京都橘大学の歴史学科に通っています。島根県のクリスチャンの家庭に生まれ、聖書を読みながら育ち、一度は信仰から離れた時期もありましたが、アシュラムセンターに来たことで、改めて信仰と向き合うことができるようになりました。

僕は旅と映画が大好きです。旅も映画も自分が今まで知らなかった世界を見せてくれます。アシュラムセンターに来たこともまた旅であり、また映画の1シーンでもあります。知らない町で知らない人たちと一緒に生活する。毎日映画の続きを見るような気持ちで過ごしています。

すでにアシュラムセンターに来て8か月が経ちましたが、その間に感じたのは人と関わ

庭仕事の他に、パン作りにも挑戦！クリスマスのため（^_^）

ご献金者
敬称略
10月分
金山　良雄
チャイム
コンソート
（池田
チャイムの会）
橋本るつ子
眞榮美恵子
中谷　哲造
尾島　江子
植松喜美子
越智　千歳
上柿　京子
香川　孝子
佐賀　昭子
山田喜久子
吉田恵美子
正岡リツコ
城　喜久雄
吉川禮子
（9月分含む）
木股　龍子
酒井　博子
沖田　朝子
榎本　和子
榎本てる子
引原　勝美
伊達　平和
阪神
ミニアシュラム
植草　桑一
宇都　和子
福岡聖書教室
村瀬　俊夫
明石シオン
雀部喜久子
多田眞愛子
岩松
アシュラム
藤田　増枝
村上　勇
田代　智子
ちいろば
牧師記念
チャペル夕礼拝
大阪聖書教室
今村　芳雄
持田　二郎
持田　裕子
森山　直子
南町田一日
アシュラム
五井　純
川島　睦子
柳沢　良雄
柳沢ユキエ
横山　宣和
脇　萬里子
大山　悠子
カフェちいろば
聖書入門講座

ることの良さです。人と関わることで何でもやる気が湧いてきます。アシュラムセンターの人たちと関わることは、僕にとって毎日の原動力になっている気がします。

たくさんの方の支えと祈り、そして神様の働きに感謝します

（インマヌエル浜田キリスト教会）

榎本　光太

光ちゃん大きなったな～

僕がここに住むのは二回目です。一度目はみんなが好きなように生活をしていました。でも今回は、みんなで掃除をしたり、ご飯を食べたりと共同生活というものをしています。どちらが良いかは分かりませんが、どちらも必要だなと思いました。

ところで、僕は誰に似たのかゆっくり生きるのが好きなので、共同生活には向いていないのかなと感じる今日この頃です。でもイエス様は、「あとでわかるようになる」とおっしゃっているので、その時が来るのを待ちたいと思います。

修道場のみんなをはじめアシュラムの方々の支えによって何不自由なく生活できていることに感謝いたします。

（甲西伝道所）

平和兄から始まり、みんなの力で、綺麗になってきた修道場。土曜日の早天はここで、鳥の声とみことばに聴き、手作り朝ご飯。左から俊輝兄、晶久兄、平和兄、知恵姉、恵師、四方師(ロサンゼルス)、光太兄

関西青年アシュラムに参加して

日比　逸雄

「あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい。」（マルコ5章34節）今年もまた猛暑の中、関西青年アシュラムに参加することができ感謝します。この4年間は退職に続く老母の介護、入院、天寿を全うした母の永眠、そして今年に入って実家への引っ越しなど、毎日の様々な出来事や急な対応などで心と体が休まる暇がない中、やっとこの夏、多忙から離れる時が持てたことを感謝します。日常の生活の中では気がつかなかったことを「開心」では、回を重ねるごとに心が開かれ、平安が与えられました。生活の様々なことを離れ、自分の心の中をゆっくりと見ることができ感謝します。「静聴」で私に与えられたみ言葉は、マルコ1章3，8節「主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ。」「その方は聖霊で洗礼をお授けになる。」の箇所です。イエス様の歩まれる道をまっすぐに整え、守りなさい。イエス様とともに毎日の祈りの道をまっすぐに歩みなさい。そして、日ごとイエス様の与えて下さる聖霊を受けて、み言葉を「洗っていただき」今日の恵みを受けなさい。ぐにゃぐにゃとした私の道を歩むのをやめて、まっすぐにのびたイエス様の道をなんの迷いもなく、愉快に歩みなさいと言われました。今までの私は、イエス様の語る一言一言を聞き逃していました。もう一度、目を覚まして、復活したイエス様のおられる「レビの時」を朝ごとに行っていきたいと思います。そして、今後の生活は十分見通せないものの、イエス様の示される「まっすぐな道」を安心して歩んでいきたいと思います。今回の、この小さい群れとしてのアシュラムにイエス様がまん中に立って語ってくださったことを感謝します。

（岐阜バプテスト教会）

井上　正子
野口　洋子
伊達　平和
山岡　義明
井上　明
井上讃美子
谷田部冴子
常任運営委員会
加々美　要
米田　康子
米田　歌子
センター
聖書教室
杉山　武文
杉山ミユキ
杉山　英理
松本　直美
尾崎　幹二
尾崎　恵
菅原　博
石井　寛
沖田　和恵
河野　和子
静岡聖書教室
安仲　萌子
無　名　氏
東京聖書教室
榎本　恵
榎本　康子
無　名　氏
榎本　光太
吉田すみゑ
日光
オリーブの里
アシュラム
堺大浜
キリスト教会
宇都宮
キリスト教会
第22回
北陸・富山
アシュラム
岩城　輝雄
鹿屋
キリスト教会
79口
￥902,892

ヨセフ基金
ちいろば
アッちゃん・
シュラム君
吉田すみゑ
2口
￥5,000

礼拝堂改築
鍬田　速明
1口

合　計
82口
￥912,892
感謝いたします

第7回　平和合同祈祷会
癒しのハープと平和へのメッセージ（1）

12月7日・夕

キャロル・サック師

11月に、長崎の浦上天主堂で、歴史的な集会が開かれました。この世界は、さまざまな形で分断されています。たとえば、右派と左派（保守とリベラル）、特権階級と下層階級（富める者と貧しき者）、キリスト教徒とイスラム教徒、アメリカ人と非アメリカ人、宗教と無宗教などです。長崎の集会は、必要とされながら、なかなか実現されなかった、新たな希望の象徴となる出来事でした。

神戸イエス団の皆様
他 各地から26名の方々が集まって平和を祈りました。

何世紀にもわたって、互いに敵対していた二つの教会が、手を取り合って、共に神様を賛美したのです。

私はミネソタ州で過ごした子ども時代のことを思い出します。当時、私たちの家の2軒先に、カトリックの家族が住んでいました。その家族の息子の一人、ケビン・ドイルは、学校で私と同じクラスにいました。ケビンが私のボーイフレンドや結婚相手になるなんて、全く考えられないことでした。だって、彼はカトリックなのですから。カトリックは、ルーテルとは全然違います。だから、カトリックの男性と結婚するわけがないと思っていました。

学校では、みんな誰がカトリックなのかを知っていました。カトリックの子はカトリックのグループにいるのが普通でしたから、一緒に遊ぶのは、ちょっと変な感じがしました。

今から思うと、なんと愚かだったのでしょう！大人になってから、カトリックの指導者より、私はたくさんの素晴らしい教えを受けてきました。指導者には、生きている方もいれば、亡くなっている方もいます。例をあげて、お話ししましょう。私が好きになった最初の祈りは、アッシジの聖フランシスコの「平和の祈り」です。夫のジムと私は、結婚式で、来て下さった皆様の前で、この祈りを共に唱えました。

平和への祈り、深く…熱く…

「すべての人を無条件に愛して下さる神様」に対するマザー・テレサの純粋な信仰の美しさは、すべての人に大きな影響を与えました。もちろん、私もマザーに大いに感銘を受けた一人です。

ミュージック・サナトロジー（音楽死生学）を学んでいた時、私たちは、中世のカトリックの修道院の歴史に、大いに啓発（けいはつ）されました。今、私は、自分の生徒にこの修道院について教えています。ルーテルとカトリックを組み合わせて、私のことを「ルーテリック！」と呼ぶ人さえいます。

愛餐会はアンナ祈りの家にて

私は、人が自分と違う人の話にじっくりと耳を傾けることによって、多くの新しいことを学べるということ、そして、私たちは本当に〝キリストにおいて一つである〟と発見できること、を学びました。

（続く）

アシュラム修道場生活記 その12 「挑戦」

伊達　平和

僕は、食べることや健康習慣だけでなく、美容にもそれなりに気を使っているのです。実は、この年末に、肌のしみとりにもチャレンジしてみたのです。人間には外見を整えることで、人に会いたくなったり、積極的な気持ちがわいてきたりするという心が備わっているのだと実感します―と言ったのは筆者ではなく、今年105歳で昇天された日野原重明先生である（日野原重明『生きていくあなたへ』153頁）。昇天半年前のインタビューをもとに編まれた本書を読んでいると、日野原先生が側にいて、自分に語りかけてくれている気がするから不思議である。

一方筆者は不精なので外見に気を遣うことはほとんどない。髪はボーズから短髪の間を行ったり来たり。服は下着以外に買うことは年に数回である。ただし、そのボロボロのナリを見て知人が服を譲ってくれるので、これまで服に困ったことはない。そんな筆者であるから「104歳でも肌のシミ取りに挑戦するのか！」と非常に印象に残った。

思えば修道場の暮らしは「挑戦」の連続である。早天祈祷会への出席に始まり、家の修繕、畑仕事、干し柿や梅シロップづくり、燻製、アシュラムの手伝いなどなど、それぞれに色々なドラマがある。その中でも今年最大の挑戦は、「アシュラムセンタークリスマス会とフリーマーケット」の運営だった。アシュラムセンターでは聖書教室の合同クリスマス会を毎年開催している。そして今回は恵牧師の住んでいるヴォーリズ建築「ダブルハウス」の内覧会を兼ねて、庭先で「フリーマーケット」も行ったのである。普通「挑戦」は自発的にするものだが、修道場では頻繁に外部からもたらされる。今回は、クリスマス会の１ヶ月前に「修道生でお願いします」とメールが入った。あまりにもタイトなスケジュールに困惑し「どうして、そんなことがありえましょうか。私には仕事も論文の〆切もありますのに」と返そうと思ったが、「まあ、なんとかなるでぇ（訳：恐れることはありません）」と恵先生が言うので引き受けたのだった。これが我が身に起こったクリスマスの奇跡である。それからスケジュールを組み、商品を用意し、人員配置を考え―結局、当日は30名ほどの参加者に恵まれ、用意した商品も大方売り切ることが出来た。献品・献身をして下さった方々、参加してくださった方々にこの場を借りて深く感謝を申し上げたい。

自分にとって今回の挑戦は、他の修道生のタラントを知ることができたという点で有意義だった。最年少のとっしーは庭の整理や商品のラベル作りが非常に上手だ。この11月から修道生になったあっきーは接客・販売や掃除の才能がある。知恵はリースづくりや飾り付けをテキパキとこなし、こうちゃんは縁の下の力持ち、さらに当日ツリーの飾り付けを手伝ってくれた高校生の相手をするのが上手いらしい。それぞれに役割をこなし、今年最大の挑戦は、良い経験になったのではないだろうか。

さて、冒頭の日野原先生の言葉はこのように続く。「もし僕が若々しいといわれるのだとすれば、いちばんの原因は、常に新しい自分との出会いを大切に過ごしているからではないかと思います」。挑戦すること。それは思いもかけず、新しい自分に出会うことだ。思えば「生活記」の最初のタイトルは「出会い」であったが、修道生たちは「挑戦」（無茶振りともいう）を通して、人と出会い、関わり、今まで知らなかった自分にも出会っている。この修道生たちのタラントが生かされ、これからの道が整えられるように祈っていて欲しい。

あとがき

12月7日に、神戸イエス団教会との合同平和祈祷会が行われた。リラ・プレカリアというアイリッシュハープの演奏をされるキャロルサックさんを迎え、静かに平和を祈る時を持った。しかし、その前日の6日に、アメリカ大統領がイスラエルの首都をエルサレムに定めることを支持し、大使館をエルサレムに置くと宣言し、平和の都は怒りと混乱の渦の中に放り込まれた。その宣言を得意満面に語る大統領の後ろのきらびやかなクリスマスツリーをなんとも言えぬ思いで見ていたのは私だけではないだろう。「もしこの日、お前も平和への道をわきまえていたなら」（ルカ19：42）エルサレムのために泣かれた主の言葉が痛い。しかし、私たちはこの年も祈り続けよう。やがてあけぼのが来、平和への道が必ず明らかになることを信じて。（恵）

1月の聖書教室など

5(金)	阪神ミニアシュラム（主恩教会　PM1:00）
8(月)	福岡聖書教室（博多クリオコートホテル　PM1:30）
11(木)	常任運営委員会（アシュラムセンター）
16(火)	大阪聖書教室（大阪クリスチャンセンター　AM10:30）
17(水)	カフェちいろば聖書入門講座（京都・伏見区深草　PM1:30）
19(金)	センター聖書教室（アシュラムセンター　AM11:00）
21(日)	ちいろば牧師記念チャペルタ礼拝・愛餐会（PM5:00）
22(月)	静岡聖書教室（旧・英和女学院宣教師館　PM2:00）
23(火)	東京聖書教室（御茶ノ水クリスチャンセンター4F　AM10:30）
23(火)	桜美林リトリートアシュラム（桜美林大学荊冠　PM2:30）

1月のアシュラム

1/25(木)〜27(土)

第43回 年頭アシュラム　主題・イエスの名のために
（関西セミナーハウス）　使徒5：41
奉仕者　榎本恵師・唄野隆師・絢子師
★詳細は、案内チラシをご覧下さい

0748−33−4030
アシュラムセンター

お申し込みはなるべく1月13日（土）までに！

2月以降のアシュラム予定

2/3(土)	呉アシュラム 奉仕者　榎本恵師	0823−21−8571 日本アライアンス呉教会
2/8(木)〜9(金)	ブラジル パラアシュラム 奉仕者　榎本恵師	0748−33−4030 アシュラムセンター
2/17(土)	ニューヨーク日米合同教会アシュラム 奉仕者　榎本恵師	0748−33−4030 アシュラムセンター
2/21(水)〜23(金)	台湾愛修会 第15回 国際正義平和アシュラム 奉仕者　榎本恵師	048−789−1325 加々美　要師

2018年3月以降のアシュラム予定

5月3〜5日	第26回 盛岡・秋田アシュラム
5月18〜19日	第5回 北陸・金沢アシュラム
6月23日前後	たびんちゅ牧師と行く沖縄巡礼の旅
7月16日	福岡一日アシュラム
9月14〜15日	新潟一泊アシュラム
9月26〜28日	第6回 日光オリーブの里アシュラム
10月1〜2日	第42回 山陰アシュラム
11月14〜16日	第42回 阪神アシュラム

みことば

日本キリスト教団
西川口教会牧師（埼玉）
金田　佐久子

「主イエスに聴く
マタイ福音書第6章より」
（9）　12節　罪の赦し

この祈りにおいて、神に求める赦しは、わたしたちが隣人に与える赦しと結び付けられています。主イエスがこう語られたことからも分かります。「もし人の過ちを赦すなら、あなたがたの天の父もあなたがたの過ちをお赦しになる。しかし、もし人を赦さないなら、あなたがたの父もあなたがたの過ちをお赦しにならない」（マタイ6・14〜15）。この主イエスのお心は、マタイによる福音書第18章23節以下のたとえに示されています。王の憐れみによって、1万タラントンの借金を帳消しにしていただいた家来がありました（1万タラントンとは当時の労働者の6千万日分の賃金に相当する巨額）。彼が自分に100デナリオン（1万タラントンの60万分の1の金額）の借金をしている仲間に出会うと、「借金を返せ」と迫り、仲間が猶予を求めているのにそれを退けて牢に入れてしまいました。そのことを知った王はこの家来を呼びつけて言います。「わたしがお前を憐れんでやったように、お前も自分の仲間を憐れんでやるべきではなかったか」。そして王は借金をすっかり返済するまでと、家来を牢役人に引き渡しました。人は皆、この家来のように、自分では負いきれない罪を神の憐れみによって赦されています。わたしたちが負いきれない罪を、天の父は主イエスに負わせて、わたしたちの罪を取り去ってくださいました。父なる神の憐みによって罪を赦されたから、仲間である隣人の罪を赦して生きるように求められています。

鈴木師ご夫妻が クリスマス聖書教室にご参加できなかったからと後日ご来訪。病、癒されて主の御用に励んでおられるとのこと。感謝！今、病の中で主の業をなしている榎本てる子師（要、酸素ボンベ）のためにもお祈り下さいました。